

土木工学科S49入学生（古希）同期会の報告

2025. 11. 10

土木53年卒 山田康晴

令和7年（2025年）は、昭和でいえば100年（昭和が63年、平成は30年、令和が7年）です。

私どもは、昭和49年（1974年）に愛媛大学土木工学科に入学しました。100年のほぼ中間で入学し卒業、約50年が経過しました。また、多くは昭和30年（1955年）生まれ、つまり70歳（古希）を迎えることから前回の還暦同期会以来10年ぶりに松山に集まりました。

※

昭和49年土木入学生は28名でした。この年はちょうど海洋工学科が新設された年で多くの講義を共に受けていました。

28名の出身地は右の表のとおりで、約3割が県内出身者（9名）で偶然でしょうか松山東校卒業生が多く（7名）いました。また広島県出身者が多いのも特徴です。このうち4年後の昭和53年卒業生は18名、3人に一人は留年したことになります。

当時は公務員、大手ゼネコン等の求人が少なく就職難の時代で、なんとか故郷の市町村役場にもぐりこんだり中堅ゼネコンへ就職したり等、全国に散らばった感があり愛媛にとどまるものは私（山田）一人でした。そのため同期会の幹事はいつも私がやる羽目になっています。

【土木工学科S49年入学生の出身地】

S 4 9 土木入学時 出身県	人数	率
愛媛県内	9	32%
四国地方（愛媛以外）	7	25%
広島県	7	25%
中国地方（広島以外）	2	7%
近畿地方	2	7%
福岡県	1	4%
計	28	

※

学生時代の思い出の一つとしては、当時学生祭のモニュメントを入り口正門に作成することが土木工学科3回生の当番となっていました。

1か月前から設計、材料調達、部材作成・組み立てを授業の合間や夜間に集まり、学生祭当日は徹夜で組み上げて完成させました。

みんなで一致協力して一つのものを作り上げたことでクラスの団結力が強まったことを思い出します。

【第26回愛媛大学学生祭の校門モニュメント】



昭和51年（1976年）

《土木工学科S49年入学生（古希）同期会》

開催日：令和7年11月4日（火） 18時から

場 所：道後温泉 ふなや

出席者：18名（卒業生16名、渡邊政広、大賀水田男先生）

▶28名の内不運にも鬼籍に入ったのは3名、留年者は自然と疎遠になり音信不通者5名、連絡可能な20名に対し、4月頃からせっせとライングループを広げていって17名の連絡網を作り上げ、ハガキ、電話などの手段をできるだけ省くことにしました。

こうして、半年も前から“やるぞ、やるぞ”とラブコールしたかいあって、卒業生20名中16名が遠くは宮城県、関東、近畿、広島等から集まり、平成15年、27年以来10年ぶり3回目の同期会を開催する運びとなりました。

▶古希のお祝いと元気で会えるのはこれが最後かなという思いで今回は「老舗温泉旅館ふなやで懇親会＋宿泊」という超豪華なコースを企画しました。

15時頃には「ふなや」にチェックイン、ひと風呂浴びで浴衣姿に変身、16時頃には三々五々参加者が集まり、久しぶりの再会を喜び合い、「（姿が）変わった、そのままだ」という挨拶の交換、宿泊部屋で早速フライングの酒宴と懐かしい話で盛り上がりました。

▶本番の同期会は18時から、「ふなや」らしく洒落た食前酒の乾杯でスタート。酔いの回らないうちに集合写真撮影、各自2分間スピーチを行いました。

大学時代の留年を免れたお礼の話、単位取得の必須条件「寒中水泳」の話、就職してから現在まで約半世紀の苦労話、経験談（特に神戸の震災、東日本大震災など）、そして古希にもなれば誰もが悩まされる病気やけがの話。

2分どころか5分近い者も出て時間はどんどん経って懇談の時間も短くなってしまいました。が、「ふなや」の御好意で20時30分までとなり、立派な食事を完食してお開きとしました。

▶「ふなやで懇親会＋宿泊」プランは大正解で、お開き後、宿泊部屋に舞台を移し缶ビールで車座になり再度昔話に花を咲かせ、2時間後の22時30分ごろまで存分に語り合いました。

つまり15時のチェックイン

【土木工学科S49年入学生16名と渡邊、大賀先生】

から22時過ぎまで7時間以上も一緒に過ごせたのです。また何度でも温泉に浸かれること、宴会参加者も入浴できることもお得です。

▶次回は77歳の喜寿にと酒の勢いに任せて誰彼となく宣言していましたが、誰がお世話してくれるの？

参加者が元気で長生きしますよう祈るばかりです。それまで時々ラインで消息確認し合いましょう！

